

冬場のヒメトビウンカ防除

今の時期、害虫の多くは冬越し中です。越冬中の害虫を防除することは、翌年の春先の害虫発生を減らす事にもつながります。今回は冬場のヒメトビウンカの防除について紹介します。

1) ヒメトビウンカの越冬

ヒメトビウンカは、イネの収穫後の刈り株や圃場内とその周辺に生えるイネ科雑草（スズメノカタビラ等）で多くが越冬します。幼虫で主に越冬し、飛べないため行動範囲が成虫ほど広くありません。そのため刈り株やイネ科雑草を耕起等ですき込みあるいは除去することによって越冬虫を減らし、春以降の発生数も減少させることができます。



ヒメトビウンカ



越冬場所のスズメノカタビラ

2) ヒメトビウンカとイネ縞葉枯病

ヒメトビウンカはウイルス病であるイネ縞葉枯病を媒介します。縞葉枯病にイネが感染すると、「**ゆうれい症状**」を示し、**分けつが抑制**されたり**出穂しなくなる**ほか、穂が**出すくみ**となったり**不稔**となって**収量に影響**が出ます。**イネ縞葉枯病が多発する地域**では、圃場周辺にウイルスを持った個体が多くいるかもしれないので、**冬の除草作業が春以降のイネ縞葉枯病予防につながります。**



ゆうれい症状



出すくみとなった穂

3) 薬剤防除も併用しよう

冬場の防除だけではヒメトビウンカの被害を完全には抑えきれません。冬場に対策を取った上で春以降に登録のある農薬を適切に使用することでヒメトビウンカの被害をしっかりと抑えましょう！